

## 「震災仮設住宅住民を対象にコミュニティの強化を図る支援」事業

### 昭和の懐かしい映像と小道具で仮設住宅に住む高齢者を激励

NPO法人20世紀アーカイブ仙台は、素人が撮影した昭和時代の8ミリフィルム映像を収集・編集し、当時の伝統・文化・暮らしなどを後世に伝えていく活動をしている。2012年度は仮設住宅に住む高齢者に映像を見せよう活動に力を入れた。

#### 高齢者の活発な発言で上映会は最初から大賑わい

NPO法人20世紀アーカイブ仙台は、家庭に埋もれている8ミリフィルムを収集し、デジタル化する活動を行ってきたが、今年度は、そのデータを積極的に活用し、「昭和の仙台」や「昔を語る会」などの上映会を行った。現在、宮城県内だけでも5万人近い人が仮設住宅に暮らし、民間賃貸住宅を使用した仮設住宅なども含めれば、自宅を追われた人はもっと多い。こうした人々を訪問して行う上映会である。

上映会の最初に登場するのは、唐草模様の風呂敷に包まれた行李である。なかには、五玉のそろばんであったり、針仕事に使うくけ台など、昔よく使われた生活用品が入っている。

「『これ、なんですか？』と聞かされると、もちろん皆さんよくご存じですから、使い方なども披露してくれますよ」と同法人・理事長の坂本英紀さん。

昔の子どもの服がでてくれば「そらあ、メリンスだ。ちょっとお金持ちの家のもんだ」、「ワシは着たことないな」などと会話が弾むのだ。

これで盛り上がった後、上映会になる。映像の内容は田植え作業や祭り、結婚式などの生活の様子や昔の街並みなどである。坂本さんや理事の伊藤豊生さんが撮影地の解説をしながら進行していくのだが、逆に映像について教わることも多い。

今年度は特に訪問先の地域に関連する映像も用意して見せた。自分が知っている場所が映ればやはり盛り上がる。例えば、東松島市の松島地区には「えんずのわり」といわれる小正月の鳥追いの行事がある。子どもたちが岩屋でお籠もりをしてから、集団で家々を回り、害鳥を追い払う唱え言葉を言って、一年の豊作や無病息災を祈願するものだ。その映像のなかに、自分の住んでいた家を見つけて、涙する人もいた。今年度、同法人はこれらの上映会を9カ所で実施した。



家庭に埋もれている8ミリフィルムを収集・編集し仮設住宅で上映会を開催している



昔の懐かしい風景を見て涙するお年寄りもいた



仮設住宅で暮らしているお年寄りは、懐かしい風景や昔の道具を見て会話が弾む

#### 回想法レクリエーション出前事業も大好評

さらに養護施設などを訪問し、「回想法レクリエーション」出前事業も行った。回想法とは、心理療法のひとつで、人生の歴史や思い出を語ってもらうことで、認知症の進行を遅らせるものだ。会話をすることが重要視されるのだが、記憶をたどるきっかけとして、この映像がたいへん効果的なのである。

「一度話し始めると、どんどん思い出すらしくて、止まらなくなりますね。同伴している施設の職員の方が驚くほどです」と坂本さん。今年度は3カ所の施設で行ったが、どこでも大好評で出前の希望はかなりあるということだ。

さらに、一般の方への公開場所として7月～10月に「センドイ座」という期間限定のアンテナショップも開店した。AJOSCの助成を受けて実現したものだ。

そこでは上映会のほか、写真展や関連書籍、また古民具などの展示が行われた。先に述べた行李も展示された。子どもにとっては初めての物ばかり。炭を入れて使うアイロンといっても、炭自体を見たことがない。洗濯板を見て、「大根おろし？」と答える子もいて、祖父や祖母の説明に驚いていた。

「お年寄りはもちろんですが、意外とお子様連れの方も多く来場されて、世代間のコミュニケーションができ、郷土を語る機会になったと思います」

同法人の活動も次第に知名度をあげ、8ミリフィルム

#### 担当者より



行く先々で「上映会」を楽しんでいただきました。

NPO法人20世紀アーカイブ仙台  
理事長  
坂本英紀さん

2年連続で私たちの活動に助成をいただき心より感謝申し上げます。おかげさまで行く先々で喜んでいただきました。仮設住宅を出て行く人も増えましたが、逆に残った方はきつい環境下に置かれています。これからもできるかぎりの応援をしていきたいと思っています。

や写真などの素材収集も順調だ。

「昨年度は60本の新しい映像が手に入りました。お宝的な映像もありましたよ」と伊藤さん。例えば、日本国中のお祭りを撮影している方からは、東北各地のお祭りの映像の寄贈を受けた。また、昭和32年に鉄道の交流電化に成功し、日本で初めて営業運転を開始した仙山線の映像など、ほかでは見られないようなものまである。

こうして集まった素材は、新たに編集され人々の目に触れることになる。すでに他県からも「映像を見たい」という要望が寄せられているが、スクリーンなどを運ぶにも経費がかかる。同法人では少しでも多くの人に見ていただくためのシステムづくりを、今後の課題としている。



上映会の開催を告知するチラシ